

地盤環境の変化に着目したダム湖の応用生態工学的研究、地域活動

- 福島県阿武隈川水系に建設された三春ダムをフィールドにして -

【目的】

1. ダムの出現に伴う環境の変化を長期にわたり観察する。
土砂の移動と自然環境 (植生や河床材に着目して)
2. 自然環境を通じて地域に貢献する。

地域活動



応用生態工学研究所
試験湛水前の
H7より研究開始



三春ダム (さくら湖)
H10年竣工 (国土交通省管理)

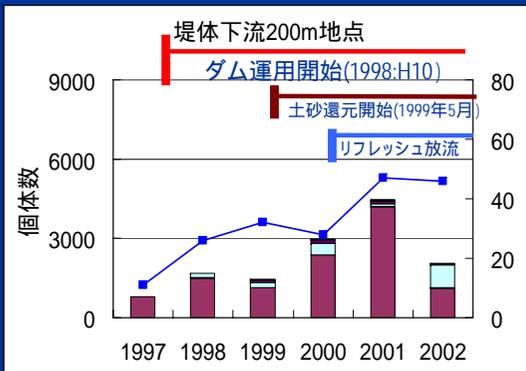
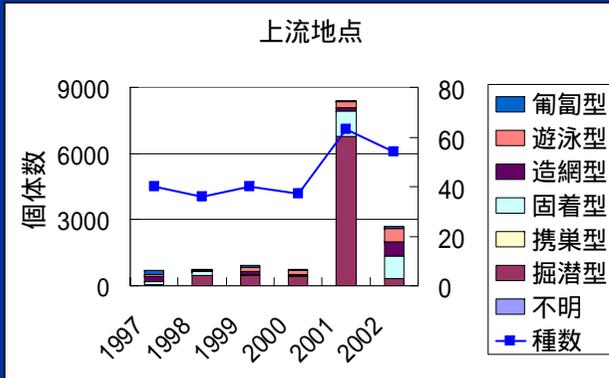
堤体

応用地質(株)

1. 土砂の移動と自然環境(植生や河床材に着目して)

	ダム下流	湖畔	ダム流入部
土砂の移動	・中州がやせた。 ・河床は粗粒化。	地盤(土壌)の変化は少ない。	河岸に土砂が堆積。
環境の変化	河床が粗粒化したが、底生動物の変化は少ない。	冠水日数が多い植物は枯死。 事前の伐採計画に反映可能。	河岸に植生が発達。

ダム上下流の底生動物の経年変化



ダム上下流を比較し、経時的に似た傾向を示す。ダム下流の底生動物相は、種数が増えつつあるが、優占する生活型は変わらず、大きな変化はない。

試験湛水後の湖畔の林

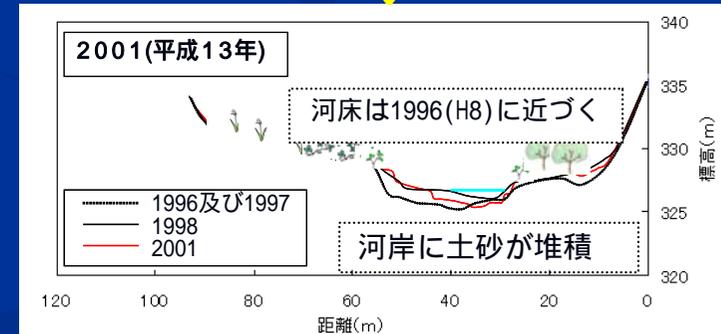
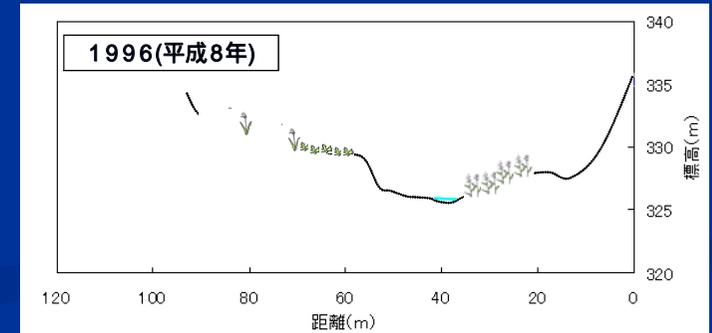


・冠水53日以上
・高木の枯死あり。成長量の低下はなし。
・低木層・草本層への影響あり。

・高木の枯死なし成長量変化なし。
・低木層・草本層の変化少ない。
樹林は維持された。

根元の冠水日数が37日より少ないと、樹木枯死はなく、植生の変化も少ない。土壌の侵食も水際部を除きなし。

ダム流入部の地形と植生



ダム流入部は、試験湛水時に土砂が堆積した。河床は元の高さに近づいたが、河岸は堆積したままで、ヤナギ林が発達した。流入部のヤナギ林は出水では破壊されにくい。

2. 地域活動

さくら湖自然環境フォーラム2008

と き:平成20年10月13日(月・体育の日)
 ところ:第一部 バス・バスターズ(滝/平野外劇場)
 午前8時受付 ※ 申込み小学生対象
 第二部 さくら湖自然環境フォーラム
 (さくら湖自然観察ステーション)
 午後1時~ ※ 一般公開

★ 主催: さくら湖自然環境フォーラム実行委員会
 三浦ダム自然環境協議会 三浦ダム事務所 中津まちづくり協会 中津まちづくり協議会 前田生業工学研究所
 三浦湖自然環境協議会センター 三浦湖上野田川協議会 三浦湖教育委員会
 ★ 共催: 外來種対策委員会(国土交通省 高知県 阿波湖川漁業協同組合)
 ★ 後援: NHK高知放送局 高知放送局 高知放送新報社 阿波湖川協議会 三浦湖教育委員会
 田村市教育委員会 日本大学工学部 高知大学 大津川川漁業生活様水対策推進協議会
 さくら湖環境協議会ネットワーク
 ★ 協賛: (社)東北建設協会
 ★ 問い合わせ先 実行委員会事務局 電話:0247-82-8887(三春交番内)

さくら湖自然環境フォーラム実行委員会



2000(H12)年より「さくら湖自然環境フォーラム」の実行委員会の一員として活動中。

【三世代アンケート】

フォーラムに参加する三春町、田村市の小学生を対象に、児童世代(小学生)、父母世代、祖父母世代の各々に小学生高学年時の水辺や遊びの様子をアンケートしました。

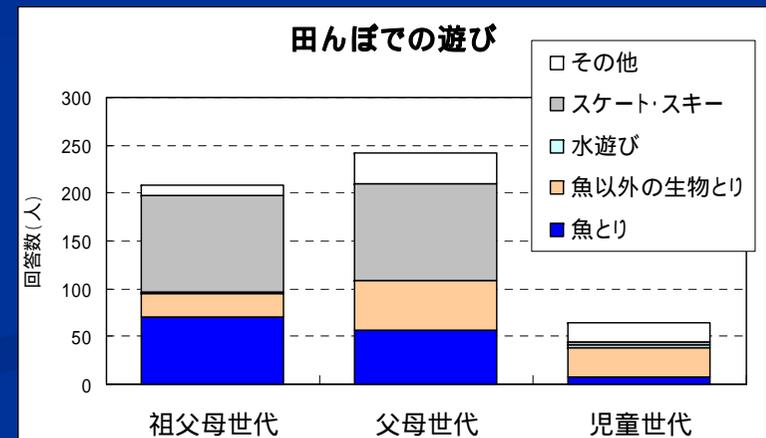
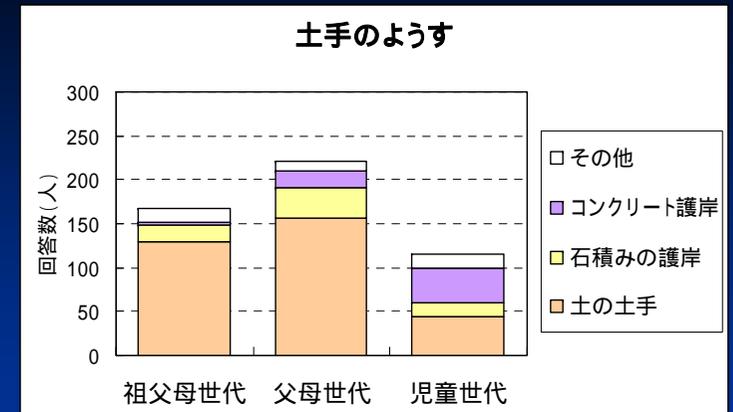
土手の様子、田んぼでの遊びなどに違いが見られました。

昔は田んぼに水が張ってあったため、冬季はスケートができましたが、今は、圃場整備が進み、冬季は乾田となっています。

アンケート結果をフォーラムで発表。



バス・バスターズフォーラムでは地引網なども実施。



祖父母世代に描いていただいたドジョウ取り(ヤス使用)の様子。